

俳句

一月二二日 土曜

いの町土佐和紙十吉村にて

合田青幹

一軸の五言絶句や床の春

三極の花咲く山や紙の村

吉本伸秋

春愁や時の止まりし破れ水車

春風に弾み箒打つ手の美し

中内みち代

紙漉の里は昔や楮干す

進む谷の流れも春の音

小笠原さちを

ひたひたと紙漉く音や春浅し
染め上げし生糸を春の違ひ棚

三月二二日 土曜

須崎市 桑田山

合田青幹

手入れよき雪割桜の苗木畑
捨て畑の所産はずつくしん坊

吉本伸秋

渦解れ切つて膨らむ高苜の藁

芋茎干す古りたる納屋の春庇

家事あれこれ

日々の生活を振り返ると、
散歩・読書・家事に区分され
る。前者二つについては度々
触れてきたので、今回は家事
について述べよう。先ず炊事
から始める。朝食であるが、
パン食を続けている。メニユ
ウは、バナナ（便秘の予防に）
納豆、「パリジャン」「黒糖
テーブルロール」の二種類の
パン、マーガリン、ジャム、
紅茶、牛乳、リンゴである。
昼食と夕食は和食であるが、
副食が難問である。当然、魚・
肉・野菜が中心の献立になる
が、その組合せに悩まされる。
一応、栄養、嗜好のバランス
を考へるが、一人住まいであ
るから量に制約があつて自由

中内英明

山道に出会ひし蝶の白ばかり

山畑に背伸びが為合へる

ものの春

中内みち代

葉桜となりし静けさ寒桜
偲ばるるみちのくすもも

咲けばなほ

小笠原さちを

石組みの上に石組み花菜風

花卉か蝶かと風に乗る迅さ

挿話

生まれし日は

榊原忠彦

大正末わが生れし日は大雪なり

しと三月二十四日の亡父の

口癖

追悼文あまた寄せくるを編みな
がら知らざりし師の余徳を思ふ

故郷の甥朝掘りの筈届け来ぬ仁

井田の池を偲びつつ食ふ

自在にはいかない。食べ切れ
なくて何食も同じものが続く
ことがある。それにスーパー
のパックものは、少量なもの
ほど割高になっている。主食
の米は一食一合と決めている。
次に、家内外の掃除であ

秦泉寺残月日記

坪井 幹之

るが、なかなかしんどい。庭
については朝の散歩から帰宅
直後、水遣りと合わせてそこ
そこにやっている。季節によ
ってかける労力が異なる。剪
定、芝刈り、落ち葉の始末な
どには手がかかる。さて、問

生きる

叶岡淑子

獄窓の歌びとありてホームレス
の人と詠み継ぐ朝日歌壇に

ひと碗の汁に暖とりその後
飢えしのぐとう青アートの歌

翌週は痛持つ人の歌つづく
生きんと思ふ老いたるわれも

安らぎ

山本晶子

枕辺にあまき香りのただよい
ぬ玄米が今炊きあがるらし

桃色の花梨咲き初めお隣に花梨

ちゃんとう女兒生まる

小鳥来て桜花の蜜を吸いいるか
しばし見たりき布団干しつつ



川柳

梅 檀 抄 ①

小澤 幸泉

日の丸と赤旗掲げ
五月晴れ

長老の舌がだんだん
もつれだし

どうしても赦せぬ罪が
胃を荒らす

叱りつけ眠れぬ夜が
長すぎる

長寿本読んでその気に
させられる

「輝け日本国憲法！」

5・3 県民のつどい」
第一部 大嶋愛さん

ピアノ弾き語り、イラクの
子どもたちの話

第二部 谷脇和仁 弁護士
改憲のうごきと平和的

生存権・テロ・海賊・ミサイ
ル問題とかかわって

主催 高知憲法会議
協賛 こうち九条の会

中の掃除には手をやいている。
年末に、恒例の大掃除に取り
かかったが、体力消耗の末、
途中でダウン。家の中は雑然
したままで、埃にまみれて年
を越した。大いに気になっ
ているが、身体が動いてくれな
い。暖かくなったら手をつけ
ようとは思っている。あと家
事労働には、衣・食・住に関
わるいろいろな雑務があり、
労苦は大きい。泣き言を書き
連ねたが、一つ一つ乗り越え
て行くのが老いたるもの道
行きである。

所得税の確定申告の時期が
きた。計算で出た税額は、七
三、〇五〇円で、前年比二、
八五〇円増と出た。今年は一、
二五〇円の還付で一件落着か。

新任 あいさつ

橋元 陽一

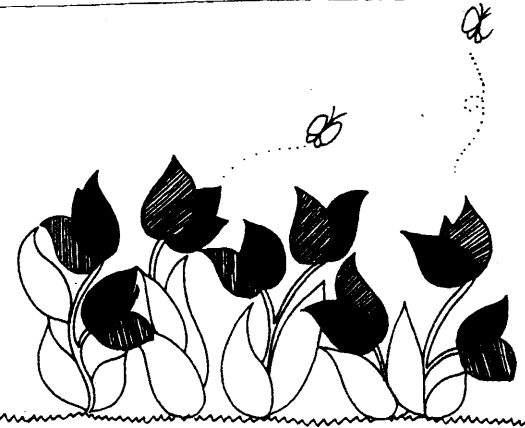
高岡高校を最後に二年残して退職し、高退協に新加入することになりました。よろしくお願ひします。

早速に常任委員というところですが、しばらくの間は、認知症になつて九〇歳を迎えた母に会いたい時に会いに行く時間を優先させたいと思いますので、時々高知不在の場合もあります。が、ご了承ください。

臨教五年目に着任した室戸高校で高教組に加入して以来三〇年間、高教組運動に参加させてもらいました。特に、幡多農業分会に所属した青年部時代からの九年間の活動では、教師としての生き方を学ぶことができました。その後、本部執行部も専従を含めて体験させていただきました。教育に携わる者が組合に所属して、行政権力に対等に発言できる立場を堅持することの大切さを実感しました。

同時に、子どもが人間らしく豊かに育つ環境を創りだしていくために、大人が学び続け、互いの意見の違いを越えて団結する力量を高めていくことが不可欠であることも学びました。

これからも皆さんの仲間に入れていただき、ヒトが人間らしく豊かに生活できる活動に参加させていただき、新たな人生を楽しんでいきたいと思ひます。



高教組より 米満敏孝

高教組では、「憲法改悪に反対し、第9条を守り、平和のために生かすこと」を求め「証署名」は、本部による毎月1回のグリーンロードや広め市場前での街宣署名、支部での街宣署名や分会での取り組みにより、12筆の到達になつています。また全教が提起した「憲法改悪阻止、改悪教育基本法の具体化を許さない3億円基金確立運動」も高教組では昨年の定期大会で目標を120万円と決定し取り組んできました。高退協の総会で訴えさせていただきました、総会参加者のみなさまより18、5000円のカンパをいただきました。どうもありがとうございました。目標がとうございました。目標達成まで5万円あまりとなりました。目標達成のため高教組では1袋3000円の豆菓子販売していますので、ご協力をお願いいたします。

高退協の総会が行われていた隣の部屋で、東京から杉井静子弁護士に来ていただき、ILO・ユネスコ「教員の地位に関する勧告」(1966年)とILO・ユネスコ共同専門家委員会勧告(CEART勧告)について学習しました。勧告は、指導力不足の認定、賃金にリンクする勤務評定制度の問題点を指摘し、国際基準から見た日本の教育行政を「非常識」「不可解」「他国

には見られない」と評価した内容になつていて、このことでした。県当局と教職員組合の「社会的対話」の条件と、現行の法制度のもとでも可能な対話の道筋について考えさせられました。

4月29日には、10年以上続いている高教組香長支部主催の山菜天ぷら登山が、土佐矢筈山で行われました。この登山の創設者能勢さんをはじめ高退協から井垣さん、島本さんが参加。残念ながら、中村さんと松山さんは風邪のために欠席。メニューは、タラの芽、ウド、椎茸、タケノコ、イゲン豆、ワサビの葉、なぜかキビナゴ、それに島本農園のタマネギ。現職等10名。遠く剣山、近くは綱付を眺めながらの天ぷらは最高でした。秋には鍋登山を行います。高退協の会員の皆様の参加をお待ちしています。

さて、高退協の皆様、「高教組活動日誌」というブログをご存じでしょうか。高教組は、1日5分の組合活動をスローガンに昨年の4月に本ブログを立ち上げました。ほぼ毎日更新していきますので、最新の高教組の取り組みについて知ることができます。是非ご覧ください。



相撲ミニ知識 (八十八)

林 勤

相撲協会八十年を振り返る

十二、平成四年～七年
(※前回分(平成三年～七年)にミスがあり、前回は平成三年のみとし、四年～七年分を今回再掲させていただきます。)

平成四年
○一月 貴花田(後の横綱貴乃花)は十九歳五月・前頭二枚目で史上最年少初優勝。
○一月 第六十三代横綱旭富士(新大関日馬富士の師匠)引退。
○五月 第六十一代横綱北勝海引退。

平成五年
○三月 第六十四代横綱曙誕生、外国人力士初の横綱。
・貴ノ花も新大関となる。(二十歳五月、史上最年少大関)
○七月 昭和六十三年三月入門の同期のライバル三人の優勝決定巴戦(十三勝二敗の曙、貴ノ花、若ノ花、優勝決定戦で曙が優勝)。
※この三力士と魁皇の四人は共に昭和六十三年三月初土俵の同期。同期四力士の中、魁皇が大関、他の三人が横綱となる。このような例は他にない。

平成六年
○十二月 大関貴乃花は二場所連続全勝優勝で第六十五代横綱となる。(双葉山も二場所連続全勝優勝で第二十五代横綱になっているが、当時「昭和十二年」は一場所十一日と十三日であった。十五日制になってからの大関での二場所連続全勝優勝は貴乃花が初。

平成七年
○一月 本県出身の行司櫻井春芳氏が第二十九代木村庄之助となる。木村庄之助は行司最高位の称号であり、力士なら東の正横綱である。木村庄之助となれば、裁くのは一日一番である。若い行司の指導に当たるのは勿論のこと、協会の評議員(行司からは二名)となり、何かと協会の運営の協議に加わる重要な地位である。庄之助は香南市(旧香我美町岸本)出身。昭和二十年十一月 初土俵、平成十二年三月場所限りで引退している。

○十一月 史上初の兄弟優勝決定戦。横綱貴乃花と大関若乃花、共に十二勝三敗で決定戦。若乃花の勝ち。
○十二月 財団法人日本相撲協会の七十年周年記念式典。

